

『待機児童解消への杉並区
の取組』

☆区長のトップダウンによる待機児童解消への熱心な取組。

☆待機児童の定義を独自に「区の定義」を設け、

国の示す定義に、「ベビーホテルに預ける方・ベビシッターを利用する方・育児休業を延長した方・求職中のひとり親家庭」等を加え、より実態を踏まえた待機児童の定義としている。

☆保育士資格を持ちながら勤務していない「潜在保育士」に目をつけ、3年以上保育士として勤務していない人を対象に新規採用時に5万円の商品券を支給。

●今後に向けて

研修先がいずれも財政規模の大きい所だったので、全ての施策を参考にはできないが学ぶべき点が多かった。担当職員も同行していたので、今後に期待したい。



窮地が育てるアイデアに研修の成果が...

第一回町議会議員研修会に参加して

7月25日、議会議員研修会が、メルパルク松山にて実施された。



○前半

講師 佐伯 啓思氏
京都大学こころの未来研究センター特任教授

演題 「日本経済再生への期待と不安」



演題から、アベノミクスは間違いか正解か、言い切れない。
第三の矢である成長戦略には疑問がある。
これからの時代は経済成長ではなく、数値で表すことが難しい。
生活の質や人との関係性を、充実させていくことが暮らしを豊かにする上で重要である。
そのためには、公共が大きな役割を果たす。地方自治体の方が中央より政策を進め易い、とのことだった。

○後半

講師 呉 善花氏
作家・拓殖大学国際学部教授

演題 「日本・朝鮮半島・近未来に起きること」



韓国済州島生まれ来日30年で第三者的な考え方に基づいた講演であった。
「現在、日本と韓国・北朝鮮の考え方には大きな違いがあり深い溝になっている。」
韓国の文大統領の両親は北朝鮮出身のため大統領は親北朝鮮。南北融合政策をとる場合、反日政策でまともなうとする。慰安婦問題を引き合いに出して、拉致問題をうやむやにしかねない。
安易に北朝鮮と会談す

研修後の感想

○前半

松前町も一自治体として住民の声を聞き身近な政策を進めていくことで、暮らしの充実につなげていくことができるのではないかと感じた。

○後半

北朝鮮による拉致問題の解決は長年の重要課題である。

日本人として国民一人ひとりが人権問題として捉え、関心を持つことが大切だと感じた。